



学校だよりNO28 令和4年11月18日 児童数 485人

薫っ子 II



文責 校長 古川 次男

道徳の授業から

14日(月)に2組で、15日(火)に3組で、16日(水)に1組で、6年の道徳の授業をさせていただきました。中学校進学を控え、少しはその準備となるようなことができればと考えて実施させていただきました。

まずは、2ページにわたる資料(以下は概要)を読み上げました。

5学年の時に厳しく接しすぎたためか6学年の持ちあがりの学級担任発表で、両隣の学級の好ましい児童の反応とは大いに異なる児童の反応に接した〇〇先生

このショッキングな話をしたあとに、「**あなたが〇〇先生なら、どうしますか?**」の問いかけをしたところ、

「先生をやめてしまう。」とか「校長先生に言って、別なクラスの担任にしてもらおう。」

などという、素直な考えを書く子もいれば、

「5年生の時のことを反省して、子どもたちのことをよく考えて指導する。」や「先輩の先生にアドバイスをもらって、より良い指導をしていく。」や「ダメなことはダメなので厳しく指導することも大事だが、休み時間などには子どもたちと一緒に遊ぶ。」

などの、すばらしい考えを書いてくれる子も多数いました。さすが、薫っ子だなと思いました。

その後、紹介した話は、4年生の時に学習した「ごんぎつね」の兵十同様(もし、兵十がごんのつぐないを知っていたら、撃たなかっただろう。)で、〇〇先生からの見方だけで書かれていたことを種明かししました。実は、

「〇〇先生の授業はとてすばらしく、クラスの学力は担任発表の時に好ましい反応を示したクラスより数段高いこと。」「厳しく指導された児童はほんの数名で、クラスのほとんどの児童はそれを好ましいことととらえていたこと。」「担任発表のときに反応できなかったのは、シャイな子が多く態度に表すことが難しかったこと。」

等であったことを話し、「**中学校では、先生や友達とどう接したいと思いますか?**」と質問してみました。

「先生や先輩に敬語を使う。」
「やさしく、楽しくなるように接したい。真剣なときは、真剣に接したい。」
「今までと変わりなく、たくさんお話をする。」
「友達にイラつきすぎない。」

人の心は、見えにくいものです。だからこそ、コミュニケーションが大切になってくるわけで、自分を知ってもらうこと、そして、相手を知ることが大切です。様々な友達と巡り合い、様々な経験を通して、一人一人が成長していくことを願っています。がんばれ、6年生!

